

『養育事典』発売記念・特別シンポジウム

# 「佐世保女子高生殺害事件の真相を探る」

2014年7月26日に、佐世保市で高校1年の女子生徒が同級生を殺害・遺体を切断した「佐世保女子高生殺害事件」。母の死、父の再婚、父親への暴行、不登校・ひきこもりを経て、少女はなぜ事件を引き起こすにいたったのか。

## シンポジスト

せりざわ しゅんすけ  
**芹沢 俊介氏** 社会評論家



たかおか けん  
**高岡 健氏** 児童精神科医



てらで すみこ  
**寺出 寿美子氏** ソーシャルワーカー  
日本子どもソーシャルワーク協会 理事長



2015年

5月23日 土曜日

●時間：13：45～16：00（予定）

●会場：砧総合支所

4階 集会室E

●申込み：予約不要。先着順。

●費用：1,000円（資料代含む）

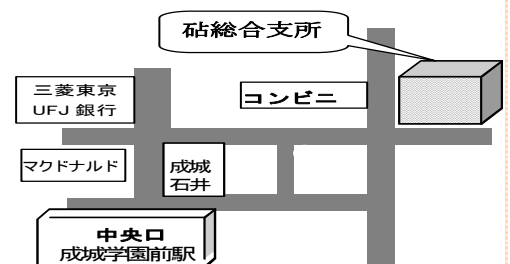
●お問合せ：03-5727-2133

（NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会事務局まで）

【会場のご案内】砧総合支所

東京都世田谷区成城6-2-1

（小田急線「成城学園前」駅下車。中央口から徒歩3分）



NPO法人 日本子どもソーシャルワーク協会

〒157-0066 世田谷区成城2-29-12

TEL:03-5727-2133

E-mail:kodomo-sw@jcsw.jp

FAX:03-3416-6994

URL:http://www.jcsw.jp/

# 『養育事典』発売記念・特別シンポジウム

## 「佐世保女子高生殺害事件の真相を探る」

2014年7月26日、佐世保市の高校1年生15歳の少女が中学時代の同級生の少女を殺害し、遺体を切断する事件が起きた。またか…。このような事件が起きても、正直あまり衝撃を受けなくなった、わたしたちがいる。

8月5日の日本経済新聞の報道によれば、事件前に少女は「人を殺してみたい。」と発言している。この発言から、事件の形式は一見、同級生殺しに見えるが、事件の本質は限りなく無差別殺傷事件に近いところに区分されると思う。近年、秋葉原無差別殺傷事件をはじめとする、個人の攻撃性が迷走してしまっている事件が続いている。かたちは違えど、黒子のバスケット事件もそうだ。わたしたちはといえば、感覚が麻痺してしまったのか、何事もなかったかのように事件を右から左へと受け流し、本来、着目すべき何かに蓋をしてしまっていないだろうか。一方で、特異な人間が引き起こす異常事件として片付けてしまう者もいる。

しかしながら、今回の事件をこのままで終わらせるのではなく、ここで一度じっくりと考えてみる必要があると思うのだ。事件の原因について、私は多くの識者の見解を迫ってきたが、「母親の死」説、「父の再婚の早さ」説、「一人暮らしという環境の変化」説などの中で、どれも十分に確かだと思えるものはなかった。その中で唯一、社会評論家の芹沢俊介氏が自身のコラムにおいて、「犯人は『教育家族』という家族のあり方」と的確に指摘をしていた。この『教育家族』という現代の病理を手がかりに、『養育』という観点から事件を掘り下げていかなければ、この事件の核心には迫れないのではないだろうか。

さて、2014年夏、芹沢俊介氏ら編集による、『養育事典』（明石書店）が発売された。いわゆる、事柄の意味や内容を調べる事典とは一線を画している。テーマとなる養育論を円の中心に据え、そこから派生し繋がるさまざまな事象・人物・思想に至るまで扱っており、思考しながら読み進める事典となっている。本のボリュームもさることながら、『養育事典』が佐世保事件に示唆すること多大である。

奇しくも、シンポジストである芹沢俊介氏、児童精神科医の高岡健氏、ソーシャルワーカーの寺出壽美子氏は『養育事典』の執筆者でもあることから、今回の発売記念特別シンポジウムを開催することとなった。

最早、「心の教育」なんかがまったく効果のないことが実証されている現在、この『養育事典』が家族、学校、福祉現場などで読まれ、わたしたち一人ひとりの養育論を再考していくことが、今回のような痛ましい事件を惹起させない、最大の抑止力になると心底思う。

シンポジストと共に、皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

【文責・寺出草太】

### [シンポジストのご紹介]

#### ◇芹沢俊介(社会評論家)

1942年生まれ。上智大学経済学部卒。文芸・教育・家族など幅広い分野の評論活動を行っている。現代の家族や学校の切実な課題、子どもたちの問題を独自の視点で捉えている。著書に『養育事典』『引きこもるといふ情熱』『存在論的ひきこもり論』『いじめが終わる時』『母という暴力』『親殺し』『孤独』から考える秋葉原無差別殺傷事件』『殺し殺されることの彼方』『家族という意志』『子どものための親子論』

#### ◇高岡健(児童精神科医)

1953年生まれ。岐阜大学医学部卒業。現在、岐阜大学医学部准教授。日本児童青年精神医学会理事。「精神医療」編集委員。自閉症スペクトラムの臨床研究のほか、不登校・ひきこもりの臨床社会的研究、少年事件の精神鑑定を多く手がけている。著書に『少年事件 心は裁判でどう扱われるのか』『精神鑑定とは何か』『発達障害という希望』『精神現象を読み解くための10章』

#### ◇寺出壽美子(ソーシャルワーカー)

1947年生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。教員、子どもの本屋店主、児童養護施設施設長などを経て、現在NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会理事長、東邦大学薬学部非常勤講師、日本虐待防止学会会員、東京都次世代育成支援行動計画懇談会委員、東京都子ども・若者支援協議会代表者会議委員、豊島区青少年問題協議会専門委員。虐待、いじめ、ひきこもり、少年事件など、多岐にわたる分野で、子ども・若者と親への面接相談や支援に従事している。著書に、『家庭訪問型子育て支援ハンドブック』『ひきこもり』という希望